

中外新聞

外篇

七



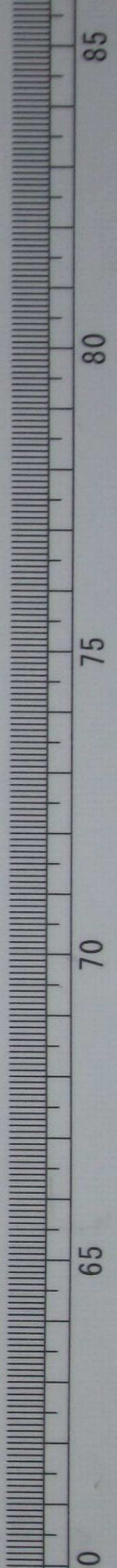
定價一匁

西垣文庫

文庫 10

7328

7



特 文庫10
7328
7



中外新聞外篇卷之七

慶應四年閏四月

○君上へ高田侯建白書

微臣政敬謹て奉言上は今般の由大難其原由顛末ハ織委承
知不仕はへども今日の場合又立至り驚愕悲痛日夜号泣
不堪は右ハ上洛ハ先供の者如何の行違より突然戦争の
事又及びハ欵全く粗暴過激憤懣又堪ざるより兵端を開き
いも可有之其故ハ若し兵力を以てハ歴倒ハ遊ハハ心慮
元より社為在ハ羨ハハも堂々徳川家の由大奉正大
高明又天下へ檄を以傳可ハ遊然上ハ仮令三才の童子と



いへども義挙を知るを以て令せしむる難き踊躍して死に投むるの機に乗し奇正應援山陰山陽の山手配の廟算の確定は為在いては發可相成の必然の美に付此度の如く一挙としては冤罪は為負の儀に有之間敷と奉存いへ今般の一条は定て真の思召より出儀は有之間敷偶然の行違より相發の事は可有之と奉存い下併今般不料も近畿をわいて騷然は為悩 宸襟の事も立至り既又征討の宣旨も下は次才は相成の全く先供の者号令嚴整明肅あらざるより如此場合も立至りは美して深くは為對 天朝にてもは為恐入の儀と奉存い曾て江戸又

於て重役の者へは達のは奏聞書写并は坂城は於て戸川伊豆守より承り来はは奏問書等の趣しむる只偶然行違より相發の兵端も有之間敷裁とも推思仕は廉も有之恐懼戦粟不堪悲歎の至奉存い抑去る冬十月は政權 朝廷へは歸し且は辭職等の事件は誠は千古のは英断しむる宇内の形勢は洞察は遊は上 皇国と万国と並ひ立皇威を海外は輝しは遊度とのは深慮の誠意よりは為出儀は万々無疑美は座は且旧臘をわいて断然大政変革は仰出儀は碁も自然輕輩の過誤よりして輩下騷擾は相成 所幼冲の 天子は為悩 宸襟にても深く奉恐入とのは憂慮よりは下坂は替

居の處置を實に神祖以來尊王の恭順の思召に継述を
為るに候し是亦奉感服居に候し座に然る処今般東西の
変異相発其餘方々思召に不為應候しも有之深皇国の
為めは心労を遊はに尤至極不為堪に憤懣の美に奉
忍察にへどもは政權先達ては歸且に職掌も無之美に付
は勿冲の聖断を以ては沙汰の趣にへは免も角も君雖不
君臣不可以不臣の節を尋行し皇国の不為不可然美再三
再四に忠諫を遊万々一に謹責有之にとり所謂天皇聖明臣
罪當誅の場は不為在飽迄もは恭順の誠意を以て寧靜
よして時を以待に遊猶幾重しもは忠諫可有之歟何れは忠

諫を遊以ては弥に忠諫の道相通兼神及の危き累卵に迫り
いとく皇親公卿の内正義の由方は勿論六十餘州の牧伯
又告て一同匡救扶持に遊に方は可有之而して奸臣猶權を
弄し政綱を紊しに候し時を量り勢を乘し伊勢の宗廟及
列聖の山凌に不為告神勅を奉し天に隨ひ入る應し大義
奉を發し天下と共に罪を臨み断然君側の奸を拂せら
るに候し日を刺しに成功可に在に然るも若し其罪惡
賤昧人心の向背未だ定らざるもは憤懣の餘り輕易に事を
不為奉以ては素心にかいて一毫の私意不為在にと
も其處置當然を不為得且當時に政權に職掌もあくして

妄^{がう}舉^{きよ}の形又相成^{あひり}り、只事の成と不成とのみあらば幾許の生靈^{せいりやう}肝腦^{かんのう}地^ぢと塗^ぬと衆論^{しゆろん}紛^ま入^い心恟^{しやう}、畢竟^{きやうけつ}は為^な為^な悩^な宸襟^{しんきん}ののみ、皇国^{かうこく}はかいつ寸功^{すんこう}尺益^{じやくえき}も無^な之一朝^{いつしやう}より下^{くだ}怒^{いか}の祖宗^{そうそう}以来^{いらい}尊^{たう}王^{わう}恭順^{きゆうん}の^の主意^{しゆい}今般^{こんぱん}の^の一身^{いつしん}の^の舉^{きよ}動^{どう}より蕩然^{たうぜん}地^ぢを拂^{はら}ひ^ひ嚴然^{げんぜん}たる^の徳川^{とくせん}氏^しの^の宗^{そう}社^{しゃ}危^き急^{きゆう}且夕^{じしゆ}又迫^{おそ}ひ^ひ我^{われ}と突^つ以^も悲^ひ歎^{たん}泣^な血^{けつ}言語^{げんご}は絶^たし^し手足^{てしゆ}の措^そ処^{ところ}を知らざり、次第^{しだい}は座^ざに且^{かつ}當時^{たうじ}海外^{かいがい}の諸国^{しよこく}入^い港^{かう}外^{がい}又^{また}交際^{かうさい}を唱^な内^{うち}又^{また}覬^{けい}願^{げん}の念^{ねん}を蓋^{おほ}ひ^ひ我^{われ}も難^{なん}計^{けい}折^{せつ}柄^{かう}の^の国内^{こく内}は干^{かん}戈^かを動^{うご}し^し其^{その}弊^{へい}よりして皇国^{かうこく}の大害^{たいがい}を釀^{じやう}し^し成^なり^り自^{みづか}是^{こゝ}乱^{らん}階^{かい}を^を用^{もち}ひ^ひ相^あ成^なりて、天朝^{てんてう}は勿^な論^{ろん}の^の祖宗^{そうそう}以来^{いらい}の^の神^{しん}灵^{れい}へ^へは^は為^な對^{たい}の^の面^{めん}目^{もく}も

無^な之^ののみ^{のみ}あ^らば千載^{せんざい}の下^の迄^{まで}の^の罪^{ざい}名^なを^を受^うけ^け我^{われ}と憂^{うれ}苦^く悲^ひ痛^{いた}の^の至^{いた}し^し奉^{ほう}存^{ぞん}の^の仰^{おほ}ぎ^ぎ願^{ねん}く^く皇^{かう}国^{こく}の^の為^{ため}に^に反^{はん}省^{しやう}の^の悔^{くわい}悟^ごを^を為^なす^す在^あ速^{すみ}に^に朝^{てう}廷^{てい}へ^へは^は異^い心^{しん}無^な之^の段^{だん}明^{めい}白^{はく}を^を仰^{おほ}上^{じやう}頭^{とう}然^{ぜん}に^に謝^{しゃ}罪^{ざい}の^の廉^{れん}に^に立^たち^ち遊^{ゆう}び^びて^て神^{しん}祖^そ以^も来^{らい}の^の宗^{そう}社^{しゃ}幾^{いく}重^{じゆう}なる^の保^ほ全^{ぜん}の^の處^{ところ}に^に熟^{じやく}慮^{りょ}を^を遊^{ゆう}び^びて^て私^し奉^{ほう}懇^{こん}願^{げん}に^に幼^{ゆう}年^{ねん}不^ふ肖^{せう}の^の私^し右^う松^{しょう}の^の伎^ぎ中^{ちゆう}上^{じやう}の^の僭^{けん}越^{えつ}恐^{おそ}懼^くの^の至^{いた}し^し奉^{ほう}存^{ぞん}の^の得^{とく}共^き先^{せん}祖^そ康^{かう}政^{せい}以^も来^{らい}無^な量^{りやう}の^の洪^{かう}恩^んを^を感^{かん}戴^{たい}仕^し其^{その}子^こ孫^{そん}たる^の此^{こゝ}大^{たい}難^{なん}に^に臨^{りん}み^み不^ふ肖^{せう}を^を憚^{おそ}り^り在^ある^る場^{ばう}合^{ごう}は^は無^な之^の切^{せつ}迫^{ぱく}悲^ひ痛^{いた}の^の餘^{あま}り^り敢^あて^て奉^{ほう}言^{げん}上^{じやう}の^の誠^{せい}恐^{おそ}誠^{せい}惶^{かう}頓^{とん}首^{しゆ}謹^{きん}言^{げん}

○行幸に付ての由布告

今度ハ一新万機從 朝廷に仰出に付てハ 皇国内遠近
とあく蒼生安堵に 以て日夜に憂慮に為在 祈然 此親
征行幸に仰出に猶海軍整備 天覽に遊閑東平定の上ハ速
に還所は為在大に 列聖の神靈奉安度深重の思召に付上
下心得違無之松銘に相勵可尽其分の沙汰に事

三月十五日

但億兆の君に

天職を為為尽以親征行幸に仰出に趣委き此趣意を不弁
しのごも只

朝廷の由上を奉按に故欵或ハ一家の盛衰目前の栄を相
考に故欵全体の由危急を知らん種々浮説を唱へ彼是
疑惑を生し以後も有之哉又相因甚以如何の事し以奈末
に迄急度安堵に 生業を可営に事

○失題

作者不詳

泣歛血腸隱草門 知不道義素心存他年凡吼雲奔後天半應懸
月一痕

○此ころの形勢も隅田の堤に來て見ると老若い
賑にぞありたる

ちんじんしんじん

たぢのいてうぢせきとちよまごせりり

